



令和4年度 学校経営計画

1 学校教育目標

勤労・自治・向上の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた人間の育成と社会の有為な形成者の育成を教育目標に掲げている。教育方針は次のとおり。

- (1) 健康な心身を育成し、情操豊かな人間性を養う。
- (2) 責任を重んじ、自主自律の精神と社会性を養う。
- (3) 思考力と判断力を培い、実行力を養う。

2 学校の特色

- (1) 本校の歴史は、大正9年に富山県中新農業学校として開校し、幾多の変遷を経て平成9年に総合学科が設置され、平成31年度に100周年記念式典を挙行了。
- (2) 教育課程は2年次から生徒の進路や興味・関心に応じて6分野（人文国際、自然科学、グリーン、スポーツ科学、福祉健康、情報ビジネス）に分かれ、進路実現に向け少人数学習を展開している。
- (3) 進路先は例年、就職40%、専門学校30%、短大20%、大学10%の割合で構成される。
- (4) 生徒会に所属する生徒は50名と多く、地域ボランティアに参加する生徒の登録者は100名を超えており、各地の行事に積極的に参加する生徒が多い。
- (5) 特色ある部活動として、ボクシング、空手道、ダンス、ウェイトリフティング、弓道、演劇、科学などがあり、全国大会で活躍することを目標に活発に活動している。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ① 基本的な生活習慣が確立されるよう生徒指導は全職員で取り組んでいる。学校の雰囲気は全体的に落ち着いているものの、粘り強い指導が必要な生徒もいる。
- ② 学校生活の目標が見つからず卒業後の進路がイメージできない生徒がいる。そのため、キャリア教育の一環として、上市町や上市町にある事業所と連携した上市高校キャリア教育プログラム「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に取り組む職業観を養っている。
- ③ 地域と連携し多岐にわたる団体との交流やボランティア活動など、さまざまな機会を通じて社会貢献活動に参加している。
- ④ 全教室にプロジェクターを設置しICT教育が推進できる環境が整備された。デジタル教科書などを活用して生徒が理解しやすく興味を持てる授業に取り組んでいる。

(2) 課題

- ① 基本的な生活習慣の確立には家庭の協力が不可欠で、学校と保護者が連携し規範意識が高まるような取り組みが必要である。
- ② キャリア教育は一定の成果があるものの、生徒が主体的に活動するには、チャレンジできる機会と環境づくりが必要である。
- ③ 学校行事や部活動、ボランティア活動等を通じて、物事に進んで取り組む能力（主体性）や現状を分析し目的や課題を明らかにする能力（課題発見力）などを育成するために必要なコミュニケーション能力を向上させていく必要がある。
- ④ 教育効果を上げるためICT機器を有効に活用できる教員研修が必要である。また、基礎学力を向上させるには生徒の理解度の把握と対策が必要であり、タブレットPCを利用し民間業者のノウハウを活用し効果をあげる必要がある。

4 学校教育計画

項 目		目 標・方 針 及 び 計 画	
(1)	校務運営	目標	①学校教育目標や教育計画に沿った校務分掌組織により、全教職員の共通理解を図り機能的・能率的な校務を運営する。
		計画	①校務運営委員会では運営方針の共通理解と各部・教科学年間の密接な連携により情報の共有化に努める。 ②様々な教育活動において、教育目標と分担業務との関連性を高め、教職員一人ひとりが意欲的に業務を遂行する意識を高める。
(2)	教育課程	目標	①一人ひとりが基礎学力を身に付け、自分の進路や適性に応じて幅広い選択科目の中から、自分で科目を選択し学べる教育課程を編成する。
		計画	①新学習指導要領に対応し校務支援システムと合わせて活用できる仕組みを構築する。 ②2年次からの科目選択で、進路希望や適性に応じて履修するカリキュラムの内容を検討し、教育課程委員会で協議する。 ③生徒の興味関心や進路希望を調査・分析する。 ④シラバスを活用した分野・科目選択のガイダンスを充実させる。
(3)	教科指導 重点1	目標	①基礎学力の定着と調和のとれた人格の形成を図る。 ②一人ひとりが、各教科の目標に到達できるように指導する。
		計画	① アクティブラーニングの手法を用いた授業を行い、生徒の学ぶ意欲を高めていく。 ②5教科の習得すべき基礎内容を示し、基礎学力の定着を図る。 ③授業改善に向けた取り組みを計画・実施する。 ④1学年の基礎学力の向上に向けた取り組みを実施する。
(4)	生徒指導 重点2	目標	①基本的な生活習慣の確立を図る。 ②保護者の理解や協力を得、規範・けじめ意識の育成を図り、規律と秩序ある校風作りをする。 ③生徒自らがマナーや規範意識を高めようとする主体的な活動を支援する。
		計画	①遅刻防止指導 ②問題行動の未然防止、早期対応 ③ 挨拶、身だしなみ、公共マナー指導 ④ 携帯・スマートフォンの使用方法に関する指導 ⑤講話（交通安全、携帯・スマートフォン、制服着こなし、性非行防止薬物乱用防止など） ⑥玄関前指導、交通安全指導 ⑦校内巡視 ⑧学習環境整備
(5)	進路指導 重点3	目標	①生徒の主体的な進路の実現を支援する。 ②キャリア教育を推進する。 ③保護者との連携等支援体制を確立する。
		計画	①総合的な探究の時間等を利用し、様々な表現力の向上を図る。 ②インターンシップ・職場見学等進路行事への参加をすすめる。 ③各学年、 進路希望に応じた面接指導の充実 を図り、保護者懇談会やPTA活動などを通じて協力体制を整える。 ④奨学制度について保護者を含め1年次から説明を行う。
(6)	特別活動 重点4	目標	①行事や部活動の目的を理解させ、各自の役割を遂行する態度や人間関係を健全に育成する。 ②放課後活動に積極的に参加する機会を作り、自己達成感を育む。
		計画	①各種行事への主体的な取り組みを支援する。（体育大会・文化活動発表会等） ②部活動に積極的な取り組みができるよう支援する。 ③校外活動（ボランティア活動、異年齢交流等）の参加数を増やす。
(7)	保健・美化	目標	①心身の健康に関する意識の向上を図る。 ②感染症対策として環境衛生を良好に保つ取り組みを行う。
		計画	①生徒・教職員の健康状態の確認と学校医と連携した保健管理を図る。 ②マスク着用、手指の消毒、換気など感染症対策の指導を徹底させる。

(8)	図書指導	目標	①読書活動を通して、幅広い知識と教養を身に付けさせ、豊かな情操を培わせる。
		計画	①「朝の読書」に取り組む意識を向上させ、読書活動の定着を図る。 ②図書館の環境を改善し、資料の利用の活発化を図る。 ③さまざまな広報活動や教養講座の運営、校外図書選定など、図書委員の自主的な活動を支援する。
(9)	情報	目標	①情報社会に参画する態度の育成を目指し、情報モラルの必要性や情報に対する責任感を図る。 ②ICT機器を使用し確かな学力を養い、学習の興味・関心を高める。
		計画	①情報手段を主体的に選択し活用するための基礎的な力を養い、教科「情報」の教員と協力し、情報モラルやセキュリティの意識の向上を促す。 ②ICT機器を活用し、生徒が「主体的に学べる」授業を模索し、パソコン・タブレット端末を使った双方向型授業やWEB授業を目指す。
(10)	教育相談	目標	①生徒が心身ともに健康な状態で高校生活を送れるように、悩みを聞き、一緒に考え、方向性を見出す。 ②生徒が直面する課題を自らの力で解決できるように支援する。
		計画	①日頃からカウンセリングマインドを持って接し、面接週間などを充実させることで、生徒理解及び悩みを抱える生徒の早期発見につなげる。また、生徒の変化に注意し、援助が必要な場合は、学年・保護者との連携を密にし、保健厚生部やスクールカウンセラーとの面談を実施する。 ②個別に支援を必要とする生徒について、適宜ケース会議を設け、支援方針および援助策について話し合う。また教職員の教育相談に対する意識及び技術向上のための研修会を設ける。さらに「相談室だより」の発行を通じて、円滑な人間関係の作り方等を紹介する。
(11)	地域との連携	目標	①学校・家庭・地域間との連携・交流をさらに深める。 ②PTA活動の活性化を図る。 ③ハッピー上市会との交流をさらに深める。
		計画	①保護者や地域の方々に学校教育活動や学校行事の参加を促すとともに、生徒や職員が地域の行事・ボランティア活動に積極的に参加する。 ②PTA行事や研修内容を充実させるとともに、アンケート実施や連絡・案内等を工夫することにより、会員相互の連携を一層密にする。 ③行政や企業等が集まるハッピー上市会と月1回の勉強会に参加する。
(12)	1学年	目標	①基本的な生活習慣を身につけ、学校・社会のルールやマナー、モラルを守ることの大切さを意識づける。 ②主体的・能動的に学ぶ姿勢を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。
		計画	①「挨拶を交わす、服装を整える、時間を守る」を重点に学校生活全体を通して細やかな声かけを行い、生徒の自立に向け家庭と連携しながら支援する。 ②「学び直しの時間」における個別最適化の学習を活用し、生徒自身が意欲を持って学ぶことと向き合い、基礎学力を身につけながら充実感や面白さを感じることで、今後のどんなことに対しても自ら学んでいく姿勢を身につけさせる。
	2学年	目標	①将来を見通し、適切な進路選択ができる力を養う。 ②進路実現に向け、自ら課題を見つけ、自主的に行動できるようにする。 ③日々の生活の中で、自己も他者も尊重する心を養う。
		計画	①県外進路研修、インターンシップ、オープンキャンパスなどへの参加を通して自らの進路選択の実践につなげる。 ②日頃の学習、生活態度、定期考査、模試・検定などの全てが、進路実現につながっている意識付けを行う。 ③挨拶、服装、時間厳守、清掃といった規範意識と思いやりが、自他ともに尊重することへ結びついている気づきにつながるよう指導する。
	3学年	目標	①進路目標を明確にして進路実現に向け学習活動や特別活動に取り組みさせる。 ②卒業後の生活を見据え、規律と責任ある行動がとれるようにする。
		計画	①総合的な探究の時間などを通して進路選択の視野を広げる。また、きめ細やかな面接指導を行って目標を具体化させ、主体的に取り組む意欲を高めさせる。 ②学校行事や部活動を通しリーダーとしての自覚を育て社会性を高めさせる。また、毎日の挨拶や清掃指導、服装指導を行い自律を促す。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 上市高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	教科指導	
重点課題	①基礎学力の定着に向けた教科指導の改善 ②新課程導入に合わせた評価と授業改善	
現 状	①-1 現在の自分の学力を把握していないため、具体的な目標が立てづらい生徒が見られる。 ①-2 基礎学力向上の取り組みとして、今年度から1学年全員が火曜7限にタブレットPCを活用した取り組みを始めた。 ①-3 教師と生徒双方向の授業展開ができるようICT機器の利用を含めた授業改善を進めている。 ②各教科で新課程導入の1学年の教科において観点別評価の導入と授業改善を進めている。	
達成目標	教育指導の改善を図り、基礎学力の具体的な目標を達成させる。 ①授業開始後、身につけてほしい基礎学力の内容を明示する。 ②考查前に基礎学力不足の生徒に学び方を教示する。	基礎学力不足の生徒の減少が10%以上
方 策	①-1 各教科で生徒に身につけさせたい基礎学力の内容を明示し、基礎学力が身につけていない生徒に対して、考查前に不足している学習内容と学び方を教示する。 ①-2 教育ソフトを利用した学習を行い、基礎学力の定着度を検証する。 ①-3 ICT機器の指導法を研究・活用し、「主体的・対話的で深い学び」の要素を盛り込んだ授業を積極的に行う。 ①-3 必要に応じて授業に対する生徒アンケートを行い、分析結果を教科指導の改善に役立てる。 ①-3 互見授業や校外外の研修に参加し、「わかる授業」を進める。 ②教科担当者の話し合いや校外の研修などを通して、新課程科目の適切な評価の在り方や対応した授業を検討し、実施する。	

令和4年度 上市高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	生活指導	
重点課題	①基本的な生活習慣の確立 ②学校生活および社会生活への適応 ③携帯電話・スマートフォンについて、正しい使用ができる生徒の育成	
現 状	①「基本的な生活習慣の自己管理」「身だしなみを整える」「公共のマナーを守る」等を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ②通学駅や玄関前での挨拶や服装指導を行っているが、コミュニケーションをとることが苦手な生徒や制服を着崩している生徒が見られる。 ③携帯・スマートフォンの校内使用違反者数は、年間延べ数でR3年度は235件とR2年度より25%増加している。指導のあり方を確認し、保護者と連携をしながら校内での取り扱いを徹底している。また、友人関係のトラブルの原因のほとんどがSNSの利用方法と関連しており、生徒のSNS利用のマナーを向上させることが求められる。ネットパトロールによる指導は、減少しているものの生徒が重大犯罪に巻き込まれないためにも、引き続き指導が必要である。	
達成目標	①②挨拶・服装・公共マナーについて、生徒の意識改善を促す指導の充実 ③携帯電話の違反による（ルール違反・ネットパトロールによる指導）指導件数の減少	
方 策	①②頭髪、服装の計画的な自己管理が出来るように生徒の意識改善を促すために、事前に生徒・保護者へ指導する日を連絡する。 また、毎朝、挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとる。 さらに、進路指導と絡めて、社会人としての在り方を考えさせ、生徒主体の指導体制を工夫し、生徒の内面的な成長を促す。 ③生徒がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないようにするとともに、学習への悪影響を防ぐため、SNSを利用する際の情報モラルを授業等で考え、生徒・保護者の意識の改善を図る。改善が見られない生徒には、家庭に連絡し、学校の方針を理解してもらい協力を得ていく。	

令和4年度 上市高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路指導		
重点課題	生徒の職業観を早期に育て主体的に進路先を探していくための情報提供と進路指導		
現 状	①進路目標の設定が遅れる生徒はしっかりとした職業観を育てていく必要がある。 ②県内外進路研修、進路体験講座など多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが必要である。		
達成目標	1 学年 進路研究を深めるため、県内を中心とした体験的行事に積極的に参加させる。	2 学年 就職希望者のうち、インターンシップに参加する生徒の割合100%	3 学年 第一希望の進学合格率と就職内定率90%以上
方 策	①-1 上市高校キャリア教育プログラム「職業を知る会」「職場見学」「インターンシップ」に多くの生徒が参加することで、早期に職業に触れ、職業観を育成していく。 ①-2 北陸の大学や医療系の学校の入試難化や、推薦入試を含め多様化が進む入試システムに対応し、入試関係の情報を随時、生徒・保護者に提供する。 ②-1 新型コロナウイルス感染症等の影響で景気が不安定な状態が続いており、求人動向が不透明である。生徒の求職活動を十分に支援するために、企業の採用情報を的確につかみ、情報提供に努める。 ②-2 オープンキャンパスや各種施設見学など、体験的な学習への参加を生徒に勧め、受験への意欲付けや就職後のギャップを減らす。 ②-3 教職員の進路研修の一環として、主に進学実績のある大学・短大等の学校説明会や入試説明会への参加を勧める。		

令和4年度 上市高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	学校行事や部活動を通してのリーダーシップ育成や学校生活の充実	
現 状	①コロナ禍で令和2、3年度の2年間は様々な形で学校行事や生徒会活動が影響を受けた。体育大会・マラソン大会の縮小や中止、学園祭の縮小、ボランティア活動への制限や縮小、生徒総会の書面開催等々、「為すことによって学ぶ」はずの特別活動が十全な形では行えなかった。やっと少し感染状況に落ち着きが見えてきた今年度こそ、原点に立ち返って、「学校行事」にしっかりと取り組ませ、リーダーシップ育成や学校生活の充実を図りたい。 ②部登録はしているが活動していない生徒や、安易に退部する生徒も多く見られる。継続して部活動を続けている生徒は、全体の60%である。令和3年度は全学年平均55%の生徒が部活動の個人目標を達成できたと答えている。	
達成目標	①学校行事に「満足感を感じた」生徒の割合60%以上(体育大会と文化活動発表会の後にアンケート実施)	②部活動の個人目標を達成した生徒の割合60%以上(12月にアンケート実施)
方 策	①コロナ禍以前に実施していた学校行事を経験していない生徒がほとんどである中で、以前は伝統的に伝わっていた準備や運営方法が途絶えている。学校行事をゼロから作り上げる新たな気持ちで、生徒も教員もより丁寧で、懇切なコミュニケーションやマニュアル作りを心がける。	②部活動の必要性や魅力を理解させ、体力や技術、意識の向上とともに人間的な成長と個性の伸長を実感させ、学校生活の充実を図る。 また、部長会議を各学期2回実施し、状況把握を行うとともに、必要な対策を行う。

【参考】

令和4年度重点事項

(1) 基本的な生活習慣の確立

将来の社会生活の基盤となる「挨拶」「服装」「整頓」の確実な定着を図る。

(2) キャリア教育の充実

上市町内の企業・事業所と連携して上市高校キャリア教育プログラムに取り組み充実させる。

(3) 地域交流活動の推進

①各分野の特色を活かし地域との交流活動を進め生徒の成功体験を積み重ねる。

②生徒自ら企画運営できる機会をつくる。

(4) 基礎学力の定着

①ICT教育を推進するため教員研修で効果的な学習方法の獲得に努める。

②民間業者のノウハウを導入しタブレットPCを活用しながら、基礎学力の定着を図り継続的な取り組みを始める。

キャリア教育の流れ



全学年（3回）
職業を知る会

進路ガイダンス



進学・就職

3年
面接指導(PTA)



2年
インターンシップ



1年
職場見学

